

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 気仙沼市立階上中学校 (※正式名称を記載)  
種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫<sup>※注1</sup>  
☐ 中学校 ☐ 中高一貫<sup>※注2</sup> ☐ 高等学校  
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校  
☐ 特別支援学校  
☐ その他（例：小中高一貫）  
所在地 〒988-0238 気仙沼市長磯中原 1 2 5  
E-mail hashikami-chu@kesennuma.ed.jp  
Website http://www.kesennuma.ed.jp/hashikami-cyuu/  
幼児児童生徒数 男子 54 名 女子 61 名 合計 115 名  
幼児・児童・生徒の年齢 13 歳～15 歳

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

## 2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800 字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校は、「自助」「自助・共助」「自助・公助」を防災学習のテーマとして、3 年 1 サイクルで学習している。今年度は、「自助」をテーマに学習を行った。

防災学習と ESD を関連づけている。ESD の実践を通して 7 つの力の育成を目標とした。

具体的な活動内容は、総合防災訓練を柱に、①学年毎の防災学習、②地域住民への質問紙調査から「自助」を考える学習、③防災学習発表会を行った。

### ① 学年毎の防災学習

1 年生は、松島自然の家の所長先生をお招きし、「地震・津波のメカニズム」の講話をいただき、実際に津波が起きたときの行動の仕方や、過去の例などを挙げていただきながら考えることができた。

2 年生は、気仙沼消防署員の方々をお招きし、救急救命講習や養護教諭を講師とし、包帯法などの学習を行った。

3 年生は、階上小学校の 1～4 年生へ、防災紙芝居や塗り絵、防災カルタなどを活用して防災啓発活動を行った。また、2・3 年生は、ブルーシートを活

用した簡易テントの作成も行い、いざという時に、状況を判断し、ある物を活用する実践力を身に付けた。

## ②地区住民への質問紙調査から「自助」を考える学習

平成28年11月22日の福島県沖地震による津波注意報・警報が発令された時の避難行動調査を階上地区住民へ行った。その結果を生徒会防災委員の生徒が集計し、全校を部活動毎のグループに分け考察・まとめを行った。その際に東北大学災害科学国際研究所准教授佐藤翔輔先生から指導助言をいただき、考察の再検討を行った。この結果は、総合防災訓練の午前中に行われた地区毎の活動や本校で行われた防災学習発表会、1月には、公民館を通して階上地区の全家庭に配布してもらった。実際に避難する人は少なかったが、震災後、高台へ自宅を移転していることや総合防災訓練への参加経験率が高いことから防災に関する意識は高いと考えられる。いざという時に状況を判断して動くことができるようにすることが自分の命を守ることにつながることを学んだ。

## ③防災学習発表会

今年度より新たな取組として、ポスターセッションや質問紙調査結果報告、パネルディスカッションを参観日に行った。また、参観日として行ったが、階上地区防災教育推進委員の方々や地区住民へ生徒が手書きで作成した案内を配布した。ポスターセッションでは、全校生徒を学年毎の活動と総合防災訓練の地区毎の活動、避難所初期設営訓練の全20グループに分けて発表会を行った。階上地区住民へ行った調査結果の報告は、生徒会防災委員が行い、パネルディスカッションは、階上地区防災教育推進委員の会長と副会長に参加していただき、前半は、3年生の生徒と「今年度の防災学習で感じたこと」後半は、1・2年生の生徒と「来年度の防災学習で行ってみたいこと」をテーマに意見交換を行った。普段、地域の方々と意見交換をする場面がないため、生徒と地域の代表の方との意見交換は有意義なものとなった。また、参加者のほとんどの方々からは、「良かった」「まあまあ良かった」という意見が寄せられた。しかし、ポスターセッションでは、「いい発表をしているのに声が小さくもったいない」という意見もたくさん寄せられ、次年度への課題も見付かった。



(学年毎の活動：3年生)



(総合防災訓練：地区毎の活動)



(総合防災訓練：避難所初期設営訓練) (防災学習発表会：ポスターセッション)



### ① 活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校では、総合的な学習の時間の35時間を使い、防災教育を行っている。また、ESDとも関連させている。指導にあたっては、昨年度までの反省を生かし、階上地区防災教育推進委員会と積極的に関わるなど地域との連携をより強固にしたことや東北大学災害科学国際研究所からの指導助言をもらいながら指導にあたった。また、防災に関連する教科（社会・理科・保健体育など）でも適切な指導に心掛けた。学校内では、防災に関する会議を増やし、先生方に伝講して防災教育にあたった。生徒の主体的な活動にするために、生徒会防災委員会の生徒を積極的に関わらせ、防災教育を行った。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

教員の防災部会を防災主任と各学年の防災担当の4名で組織し、月に1～2回の防災部会を開き、計画の立案や反省等を行った。全職員には、職員会議や校内研修会等で伝講したり、学年の防災担当職員から伝講したりする形をとり、全職員が共通理解を図れるような体制を作った。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

教員と生徒へのアンケート調査結果から、教員は、「まとめる力」「発表する力」「臨機応変に対応する力」「考える力」「協力する力」が生徒に身に付いたと回答していた。生徒は、「自分の命を守る力」「状況を見て臨機応変に対応する力」「状況を見て判断し行動する力」が身に付いたと回答していた。このことから、総合的な学習の時間のねらいに迫っていることが分かる。また、保護者や地域の方々からも今年度の学習への良い評価をいただいている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

本校では、学習した成果を、総合防災訓練や当校内で行った防災学習発表会で保護者や地域住民へ発信した。また、兵庫県神戸市において行われた、1. 17のつどいや気仙沼市内の防災フォーラム、防災フェスタ、近隣の高校での発表の機会をもらい学習の成果を発信してきた。生徒は、学習の成果を発信することで、発表する力や思考力、自助の力や何より自信をつけることができた。発表を聞いた方々からももっと色々な場面で発表してすばらしい取組を発信してほしい。と意見をいただいた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

階上地区防災教育推進委員会へ生徒を参加させ、今年度の防災学習の協力の依頼や御礼を行った。また、東北大学災害科学国際研究所からのアドバイスをもらいながら防災教育を展開した。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

今年度は、階上地区防災教育推進委員会からたくさんの防災教育への協力をいただき、生徒と地域の方々との関係が近くなり、防災学習の成果を発信することで、地域防災力の向上につながってきていると感じる。また、東北大学災害科学国際研究所と積極的な連携により、指導助言をいただきながら、よりよい防災教育を行うことができた。

- （3）平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

来年度は、新たな調査を地区住民と生徒に行い、防災に関する意識の違いを学習させたい。また、自助に関する内容の深まりを感じさせい。共助学習としては、本校の防災学習の取組を地域に発信することで、防災に関する考え方を地域の方々にも理解してもらうようにすることや総合防災訓練での地区毎の活動に積極的に参加することで、ねらいに迫りたい。そのためにも、階上地区防災教育推進委員会との更なる連携の強化や東北大学災害科学国際研究所から指導助言をいただきながら進めていきたいと考えている。